

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人筑後市文化振興公社	
施 設 名	サザンクス筑後	
助成対象活動名	人材育成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	1,405	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業	229	(千円)
普及啓発事業	1,176	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	サザンクス筑後アートマネジメント人材育成事業 サザンクスデザイナーズ養成講座	平成30年4月17日～ 平成31年3月9日	伊藤美歩・増山均・平田オリザ・ 大石時雄・本田恵介ほか	目標値	30
		サザンクス筑後		実績値	538
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	30
				実績値	538

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	サザンクス筑後アウトリーチ事業「学校&地域アウトリーチプログラム～こどもを育てるアートのちから～」(第8期)	平成30年5月～平成31年2月	九州管楽合奏団・長谷川天晴・坪内晋司・清水きよし・かんのとしこ・富安美沙子・久保田力・松岡優子・	目標値	4,700
		筑後市内保育園・幼稚園・小学校・中学校・市内施設・サザンクス筑後等		実績値	4,320
2	文化芸術によるまちづくり・ひとづくり～演劇教育・表現コミュニケーション教育編～	平成30年12月26日	平田オリザ 市内小学校教諭 こどものためのえんげひろば受講生等	目標値	200
		サザンクス筑後		実績値	105
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	4,900
				実績値	4,425

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

文化芸術振興基本法から文化芸術基本法への改正がなされる中、文化施設から社会機能施設への転換を意識したミッションであり、劇場に従事する職員がその意識と具体的な事業を更新し、創造していくことが前提ではありますが、その変化や改革が具体的に市民に知らしめられていくこと。また、市民と共にその改革を行っていくことを大切にその組み立てを行いました。

「文化芸術デザイナーズ講座」と銘打ち、文化芸術のジャンルのみでなく教育・福祉・まちづくり・復興支援・防災と言った、多岐にわたる学びを市民に提供することにより、劇場の変革を表現していくことができました。きめ細かな広報・周知を行ない、各回とも平均30名の参加があったことも、評価できるべき点です。年度初めより計画し年間にはわたって行った講座でしたが、日程等も予定通り進行させることができました。

8年目を迎えた「アウトリーチ事業」においては、延べ4,320名の参加。小学校においては「アウトリーチ」の名称が定着してきており、筑後市内11校、すべての学校において実施回数差はあるものの、『〇年生の時にアウトリーチの授業を受ける』という形で、その実施は不動のものとなっています。開催時期に関しては、前年度の秋口に、市内の校長会において次年度の開催希望を取る事も定着し、その後（前年度中）に確定させ、新年度に入れやすく実施できるスケジュールの組み立ても適切に行われるようになってきています。

平成29年度からは保育園・幼稚園においても「アウトリーチ事業」を行っており、当年度も予定どおり、市内すべての園において「芸術体験」を届けることができました。

12月に開催した「文化芸術によるまちづくり」講座に関しても、平田オリザ氏の日程を調整し予定通り開催。打合せを行っていく際に、内容の点から名称の変更はあったものの「演劇と教育」「演劇と市民」を結び付け、「文化芸術を通したまちづくりこそが人づくりである」という布石を打つ取り組みも予定通り行い、市民への啓発活動となりました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

「次世代の担い手づくり」をミッションとして取り組んでいるこの事業の最大の目的は、子どもたちが健全に成長出来る環境を文化芸術体験活動によって作りだし、そのことが大事であると肯定できる大人の理解者と支援者を作っていくことにあります。この事業に加え、従来から小学校・市教育委員会と共に行ってきた「筑後市内小学校合同鑑賞連絡会」の事業により、筑後市内に住む0～11歳の子どもたちの5,500名中5,000名は、年間を通して少なくとも最低1回は、何らかの形で舞台芸術鑑賞や文化芸術体験ができる環境を作りだしてきました。このように対等平等かつきめ細やかな形で事業を行えているのは、筑後市が人口5万人弱の中規模都市であるからだと考えます。当財団の年間予算は平均して1億5千万円ですが、内、この助成事業も含めて「次世代の担い手づくり」に関連する直接的な事業支出予算は約680万円です。ほか市民への啓発事業や表現教育事業予算等を加えて約1,000万円。これは当財団の全体予算の僅か6.6%です。逆に言えば、この支出金額のみで筑後市内の0～11歳の90%を超える子どもたちに、この環境が提供出来る事になります。1人当たり1,818円です。施設を維持管理するための最低の予算は必要ではあるため、この割合を大きく変化させていくことは難しい中、劇場・音楽堂等機能強化推進事業による助成は、とても大きな力を持つものです。小さな市のこの事業に、文化庁からの助成が行われている事は、市民にとっても誇りであり、またこの事を根拠に今後更にファンドレイジングや寄付金による具体的な支援者を拡大し、金銭面的にもこの割合を増やし、更にきめ細やかな展開、かつ質のよい作品で事業を展開していきます。筑後市の子どもたちの未来へ繋がる助成金としての位置づけであると言えます。

助成金を得て継続的に行うことで、文化的価値を作りだしてきたこの事業は、地域社会におけるコミュニティ形成や文化水準の引き上げを行うことが可能であり、更には経済的価値を見出すことが出来ると考えており、今年度においても構築していきます。またこの経験を社会化させていき、日本全国へ拡大し、何らかの形で提言することが出来ないだろうかと考えます。前述のとおり、年間1人当たり1,818円で、小学生以下のすべての児童に文化芸術を届けることが出来るのです。日本国に置き換えて考えると0～11歳の児童数1,294万人に対して、文化庁予算の20%。国家予算の2%が「児童文化手当」として保障されれば、対等平等にその機会を提供できるのです。

小さな町であり、地域の中核劇場であるが故にきめ細かに行えるこの実践・経験を、文化的にも社会的にも経済的にも発信できる文化事業として質・量ともに更に継続発展させていきたいと考えています。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

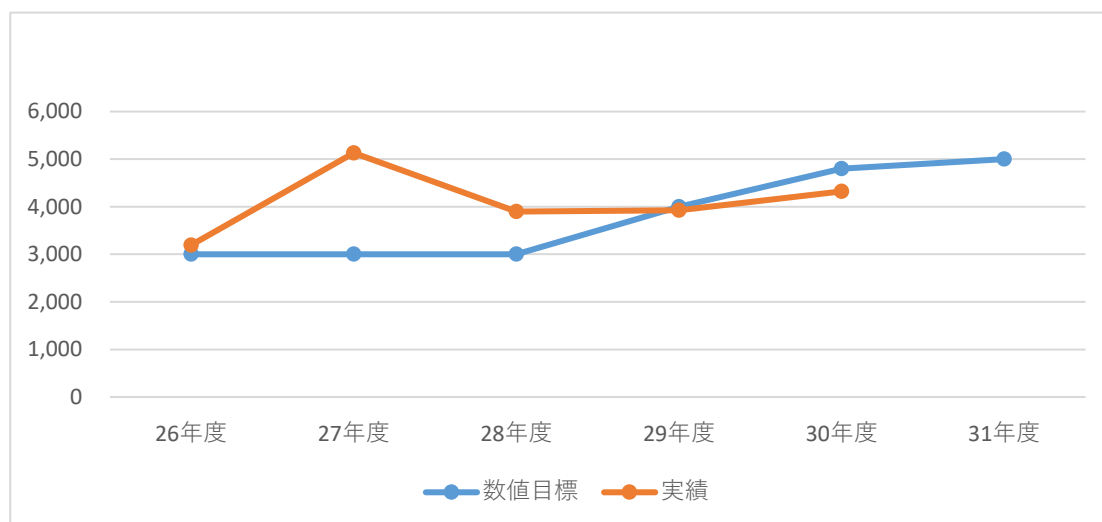
前述同様、「次世代の担い手づくり」をミッションとして取り組んでいるこの事業の最大の目的は、子どもたちが健全成長出来る環境を文化芸術体験活動によって作りだし、そのことが大事であると肯定できる大人の理解者と支援者を作っていくことにあります。

とりわけ、普及啓発事業として平成23年より行ってきた「アウトリーチ事業」に関しては、市内全児童にいかにして文化芸術体験を普及し、その環境を作りだしていくかが目標設定におけるベースとして考えてきました。更には「ニーズを掴む」と「ニーズを作る」視点に立って、地域や児童が求めているものを提供・実施することにより、その先のニーズを作り出すことも目標でした。実施年度毎に、定着化させていきたいテーマには継続してこだわりをもって実施。またニーズを作る点においては、都度、新たなジャンルのプログラムの組み込みも試みてきました。目標数値の設定は、小学校児童数の3,000名を基準としていますが、29年度からは対象を保育園・幼稚園にも拡大し、未就学児への体験事業を開催。数値も増加させ、市内に住む全子どもへ向けた事業として位置付け、目標値も増やしました。30年度は、地域施設（福祉施設等）での実施がまだ困難であったため、目標値に対して90%の達成率となりましたので、次年度への課題とし5,000名への拡大目標をもち、進捗させています（但し、この文化庁補助金対象外のアウトリーチ事業等もっており、その数値を合計すると、目標に達してはいます）。

更に平成30年度においては、そのことを理解し支援するおとなの人材育成の在り方を、啓発活動も含めて整理・更新した「文化芸術デザイナーズ講座」も実施。多岐のテーマにわたる内容を準備し、市民参加を募り、まずは関心を寄せていただける市民の育成に努めることを目標として、3校区ある中学校各校区より、最低10名の参加数を基準に各回30名×12回の講座を設定しました。結果、延べ参加人数は538名と、目標を上回る結果となりました。これは、劇場・音楽堂等の資源を活用するという点において、文化芸術活動のためだけの施設ではなく「社会的機能施設」の役割をもった施設であることを内容・質ともに計画し、体現していった結果であると思います。

【アウトリーチ事業 数値実績推移】＊1

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
数値目標	3,000	3,000	3,000	4,000	4,800	5,000
実績	3,194	5,130	3,899	3,923	4,320	
%	106%	171%	130%	98%	90%	



【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

申請時においては「アウトリーチ事業」「文化芸術デザイナーズ講座」とともに、年間をとおしての実施であるため、年度後半の講座等が講師の日程調整や内容も含めて不明確である部分はありましたが、進捗させていく中で、ほぼ予定通りに開催することができました。

但し「普及啓発事業」として考えた、まとめと理論構築のための開催を考えた「文化芸術・教育研究大会（仮称）」に関しては、当初、市教育委員会や学校校長会等との共催を予定していましたが、時期が折り合わなかったため、市民参加も含む内容としたところから、「文化芸術によるまちづくり・ひとづくり～演劇教育・表現コミュニケーション教育編～」とタイトルを変更し実施しました。結果、対象枠が広がったことにより、教育関係者も含む105名の参加があり、当初考えていた目的は達成することができました。

収支予算は、普及啓発事業（アウトリーチ事業）に関しては、助成金確定額の関係も含めて、当初予定額3,213万円から2,688万円（△525千円）。人材育成事業に関しては、560千円から467千円（△93千円）と、若干の減による結果となりました。公演事業にも申請しておりましたが、あいにく不採択であったため、その関連事業の一部を統合させて実施しました。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

平成30年度の劇場・音楽堂等機能強化推進事業への助成金応募にあたって、サザンクス筑後の社会的役割（ミッション）の設問の項に、①サザンクス筑後を築いてきたミッションに誇りを持って。②社会に＝市民に求められる劇場として更なる発展を。③次世代の担い手を育成し、自己肯定感を育める居場所としての役割次世代の担い手づくり。と、表現しました。25年前の開館当初「劇場は市民の創造の発表の場」であり「ひとづくりの場」であるとのミッションを掲げ、当財団は設立しました。その意思を継承し、その時代にあった、あるいは先取りした様々な事業を展開してきました。「人が人を生かし」「人と人が共に育つ」場が、サザンクス筑後です。

また平成28年度より、代表理事に筑後市教育長が就任。市内大学の教授を館長兼総合芸術監督として配置。また事務局長は、人材育成総括芸術監督・アートプロデューサーを兼務する能力を持つ人材としてのキャリアを持つ人材を雇用しており、この3者（行政・大学・文化施設）をトップにおいた連携・指示系統が、今の財団の事業の基盤を作り出しています。必然的にその理念の中心が「次世代の担い手育成」に置かれ、すべてのこどもたち、すべての住民を対象にしたこのきめ細かな事業展開へと結びつき、更には体験した子どもたちや市民が逆にサザンクス筑後へ足を運ぶ機会を創出（下欄「夏休みアートフェス」等）することにより、発信事業となり大きな成果を生み出しています。「アウトリーチ事業」等の実施をとおして、施設が地域の文化・社会機能を持つ拠点としての役割を体現していく結果に結びついていると考えます。

【夏休みアートフェスティバル】 * 2・3

夏休みの期間（平成30年度は、7月22日～8月25日）は、「いつ来ても何かやってる」企画を開催。アウトリーチ事業を体験した子どもたちや親子が連日訪れ、毎日が賑わいました。子どもの居場所づくりの事業の一環として行い
 昨年比155%増の来館者数となりました。



【夏休みアートフェスティバル期間の来館者推移（平成29-30年度比） * 2・3

（単位：人）

年	大ホール	小ホール	イベントホール	研修室	ギャラリー	ロビーほか	貸館利用 人数計	事業参加 人数計	総計
29年	6,161	6,206	1,606	1,417	100	325	12,520	3,510	16,030
30年	10,143	6,696	2,037	1,723	1,125	3,199	13,050	11,870	24,820
(29-30差引)	+3982	+490	+431	+306	+1025	+2874	+530	+8360	+8790
(29-30比率)	165%	108%	127%	122%	1125%	984%	104%	338%	155%

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

「文化芸術デザイナーズ講座」の実施は、まさに地域のニーズに応え、ニーズを作り出すものでした。教育・福祉・まちづくり（ファンドレイジングの観点で開催）・文化施設における復興支援とは等をテーマに講師を選定し実施したところ、予想をはるかに超える583名の市民参加があったことは、その関心を示していると言えます。広報周知に関しては、チラシはもちろんのこと、SNS・ホームページをとおしての情報による問合せもあり、参加者も遠くは鹿児島・広島など県外からの参加もあり、年度初めにホームページの改善をしたことによる効果が現れました。「文化芸術によるまちづくり～演劇教育・表現コミュニケーション教育編～」においては、平田オリザ氏に、この事業を、現場を体験している子ども・保護者・学校教師等の実践報告を聞いていただき、その成果と課題の好評をいただくなど、専門家の角度で分析も含めてご講義いただくことが出来ました。

また、8年間継続してきたアウトリーチ事業においては、小学生時代にこの事業を経験した市内の全中学生1,500名に追跡・意識アンケートを実施し、またその回答者の中から数人を抽出し、ヒアリングを実施。その成果と課題を整理しています。公社のスタッフ自らが出掛け、もしくはアーティストを招聘して行っているこの事業は、現場でも、またその経験を経たこどもたちにもたいへん大きな知恵と勇気をもたらしたものとなっていることが見えてきました。

平成30年度文化庁助成、宮城県復興強化推進事業（文化芸術復興助成） 独立行政法人日本放送文化振興公社

第1部 筑後市・サザンクス筑後におけるアウトリーチ事業の実践報告

第2部 平田オリザ氏講演

第3部 パネルディスカッション各質疑応答

2018 12/26(水) 13:00~16:30

サザンクス筑後 イベントホール

入場無料(要申込み)

主催：公益財団法人筑後市文化振興公社 サザンクス筑後アーキテクス・人材育成事業

共催：お茶会 / オフィス筑後 後援：筑後市 協賛：筑後市教育委員会 協賛：筑後市文化振興公社

TEL:0942-54-1200 FAX:0942-54-1205 E-mail:ozarukus@abeta.or.jp

【当日のプログラム】

第1部 筑後市・サザンクス筑後におけるアウトリーチ事業の実践報告

① サザンクス筑後 こどものためのえんげきひろば 20年のあゆみ

報告：久保田力（公益財団法人筑後市文化振興公社 事務局長）
 諸君星歩（筑後小学校卒業、現在、羽犬塚中学校3年生）
 久藤明日香（松原小学校・筑後北中学校卒業生）
 後藤吉宗（筑後北小学校・筑後北中学校卒業生）
 大石美玄（羽犬塚小学校・大連中学・高校卒業生）
 永田佳沙（羽犬塚小学校・羽犬塚中学校・八女高校卒業生）
 石橋梅子（えんげきひろば保護者） 吉

② アウトリーチ事業

丸山道軒（古島小学校3年生担任）
 野田志保里（水田小学校6年生担任）
 黒岩良代 指導員（教育支援教室スマイル）
 浦口晋也（筑後市地場おこし協力隊）
 永松俊次（JA八女職員）
 松崎優子（SAROK 代表・熊本県）

第2部 平田オリザ氏講演

「わかりあえないことから ～コミュニケーション能力とは何か～」

第3部 パネルディスカッション

「演劇は、まちをつくり、人を育て、繁さ、日本を救えるのか？」



【文化芸術によるまちづくり】* 4
公益財団法人筑後市文化振興公社平成30年度事業報告書より

筑後市内中学校（羽犬塚・筑後北・筑後）全学年・全児童対象アンケート集計 平成30年11~12月実施

★あなたの出身小学校は？

羽犬塚	筑後	古川	下妻	水洗	水田	古島	二川	筑後北	松原	西牟田	計	回答率
246	193	54	23	97	109	38	49	131	138	94	1172	1172/1265
												93%

★アウトリーチ事業に関する設問

●小学校の時、サザンクス筑後によるアウトリーチ事業を受けてどうでしたか？

羽犬塚	筑後	古川	下妻	水洗	水田	古島	二川	筑後北	松原	西牟田	計
131	70	29	8	59	62	16	18	97	52	35	587
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%											

●アウトリーチの授業で「覚えていること」や「印象に残っていること」または「役立っていること」は？

- ダンス (227人)
- 表現コミュニケーション (88人)
- 落語 (39人)
- 演劇 (58人)
- たのしかった、おもしろかった (81人)
- コミュニケーションをとることで友達との仲が深まった。(61人)
- 身体を使って表現すること (40人)
- はずかしさをすることができ、みんなの前で表現することができた。(11人)
- 顔、身体、目線などで気持ちを表現できることが分かった。(8人)
- 表現する楽しさを教えてもらった。(11人)
- ナイフとフォーク (47人)
- 演劇をしたこと (34人)
- 人権劇で差別の苦しさを近くで感じることができ、深く考えることができた。
- みんなで合わせることの大切さを知り、普段の生活で心がけている。
- Jazz体験をして好きになって吹奏楽部に入部した。
- リキさん、トミさんのこと (32人) など

ととてもよかった 85%
 よかった 15%
 どちらとも言えない 0%

【文化芸術によるまちづくり】* 5
当日の実績報告
パワーポイントデータより

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

PDCAの検証サイクルに沿い、平成30年度の検証（D）を終え、すでに改善（A）を行った状況で、平成31年度の事業に取り込んでいます。幸いにも平成31年度においても、劇場・音楽堂等機能強化推進事業の助成も内定し、取り組みを進めています。目標・ミッションは従来のものを更に継続・継承・発展させていくことは前提ではありますが、一番の課題はマンパワーの問題でした。前述のとおり、行政・大学・文化施設の人的連携により強固な指導系統を作り出していますが、そのことを実働していく職員体制が不可欠であるという課題でした。この事業の実践をおして見えている課題を早急に解決しなければ、実行（D）するにあたって事業の縮小化もあり得ることでありました。しかしながら、当財団の25年間の実績と、この事業に興味・関心が広がっているのも事実でした。

平成31年度に入り、文化施設での業務経験や俳優及び制作者の力量を持つ人材を1名。サザンクス筑後にて、15年にわたり表現講座を受講し成人を迎えた人材を1名。即戦力となる正規職員を2名雇用することができました。この人的拡大により、ネットワークの拡大と機動力を得、平成30年度の事業はもとより、令和2年度へ向けて、見通しを持った戦略を立案できる組織機能強化を行いました。すでに30年度にアーティストの人材の招聘の拡大も行っており、ネットワークは拡大しています。九州在住の様々な演劇人を招き、筑後の子どもたちとの出会いをとし、質の良い内容はもとより、九州の演劇人の研鑽の場としての役割も果たしていきたいと考えています。また、令和2年度には「アシテジ世界大会」を基盤とした「サザンクス筑後 2020国際舞台芸術フェスティバル（仮称）」の事業計画を進めており、当財団が、九州（福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島）の連携ネットワーク形成の主幹を担って行っていく所存です。このことを契機に、進捗が考え方のみになっているファンドレイジングの計画も具体化していきたいと思っています。「まちづくりはひとづくり」の理念のもと、そして館長（芸術監督）を筆頭に「職員の顔が見える施設づくり」を大切に、私たち自身が市民と共に歩む姿勢で「まちとひとの連携」を築いていく組織活動の発展を導き出すことができた平成30年度の事業となりました。

私たちは、
“出会い”と“発見”に満ちた
『賑わいのあるサザンクス筑後』を目指しています。

スタッフ紹介

お気軽に
お声掛けください！

公益財団法人 筑後市文化振興公社
サザンクス筑後

【公益財団法人筑後市文化振興公社
平成31年度文事業計画書より】 *6